

# チャム写本に見るベトナム大南阮朝の対外積極策・ 造船事業と地域社会の疲弊

——チャム回民蜂起の予兆として——

新 江 利 彦

キーワード：ベトナム，チャム，資本主義の世界化，阮朝造船事業，1834-1835順省蛮匪（チャム回民蜂起）

## 1. はじめに

越南（ベトナム）の大南阮朝の造船事業については、阮朝正史のほか、広南阮氏の藩屏であったパンドゥランガのチャム人藩王国（Nagar Cam di Pāngdarang, 順城鎮, 1695-1832）のチャム写本（（档案，チャム文と漢文）に、広南阮氏を滅ぼした西山阮朝の造船事業への言及があることが、フランス極東学院（EFEO）から調査依頼を受けた石澤良昭（Ishizawa Yoshiaki, 1980）と陳智超（Chén Zhì-chāo, 1984）によって報告されている。パンドゥランガは越南の中部南端—いまの寧順省（Tỉnh Ninh Thuận）と平順省（Tỉnh Bình Thuận）にあった小国で、2020年の年平均降水量は、森林地域を含め600-1100 mmの半砂漠地域である（Đặng Thanh Bình, 2020）。主要住民はマレー系チャム語（占語）話者のチャム人である。『大南一統志』（1909）巻12「平順省志」風俗の条は、「チャム人の慣習集団は二つある。一つは尼俗<sup>(1)</sup>（バニー集団）といい、一つは占俗<sup>(2)</sup>（チャム集団）という」と記し、尼俗暦と占俗暦についても記す。2019年宗教人口統計（GSO, 2020：211）によればバニー約6万人、チャム約7万人である。パンドゥランガ社会はチャム人のほか、山地民チュルー人、ラグライ人、コホー人、チャム王の法律と税制に従う元・越人（漢籍チャム写本

には京旧人と表記されて、安南民と表記される越人と区別された）、大明客商からなる多民族社会であった。石澤良昭・陳智超が整理した18-19世紀の王家のチャム写本（占婆王府档案）はチャム王（1798年以降阮朝は藩王を任命せず、藩務者または藩僚が事実上の藩王となる）が、広南阮氏、西山阮朝、大南阮朝など、その時々宗主国に提出した行政・裁判関係文書の写し（写本）であり、漢籍（一部は喃文）とチャム文の両方がある。エーモニエが収集した「王の年代記」（*Śakkahrāy dakrai putao*）のチャム文では、広南阮氏と大南阮朝はユウン王（エーモニエ転写：putao Yūon = EFEO転写：patao Yuen, 阮王）と、西山阮朝はニャーク王（putao Nhak < Nhac = patao Nyāk, 岳王）と綴られる（Aymonier, 1889）。藩王国の漢籍チャム写本には「材木船艘」（木を切り、板材を取り、船を造る）労役について西山阮朝時代の三档案が挙げられ、幾つかの档案には1～2行でチャム文の概要が付されている：

- 档案番号93-25, 「速交納鉄子, 以便鑄造戰船」泰徳七年七月二十八日 = 1784.）。
  - 档案番号93-20, 「貢納鉄子, 鑄造戰船」泰徳八年正月二十八日 = 1785.）。
  - 档案番号93-08, 「速就屯管納鉄, 以制作戰船事」泰徳八年二月初四日 = 1785.）。
- 越国内の各チャム人集落で伝承されてきた

チャム写本は1,000冊以上、10万頁以上ある (Thập Liên Trường, 2006; Thành Phần, 2007)。その中に「ポーチュン王のアーリヤー」(Pō Ceng Cen/阮文振, 在位1798-1822) と「ポーポクトゥー王のアーリヤー」(Pō Phaok The/阮文承, 在位1828-1832) があり、ユウン王 (阮王・阮朝皇帝) が課す材木船艘労役で人々が疲弊する様子や、風俗習慣等の同化政策の様子を繰り返し描写する。

チャム王のチャム名と漢名の対照はエーモニエ「チャム語の文法」付録の「王の年代記」(Etienne Aymonier, 1889; Śakkahrāy dak rai putao, c.1832), 阮文超「順城遺事」(大越地輿全編巻4, 1890) 所収の「阮文承開載世次」と、ポーダルマー『パードゥランガ史』(Po Dharma, 1987) による。チャム集落のチャム名と漢名の対照は越南第一国家留野中心所蔵の『阮朝地簿』(1836) とムセー神父『占越法辞典』付録の「占語中各地呼称」(Gérald Moussay, 1971: 471) による。

1692年の広南阮氏によるパードゥランガのチャム人王国 (占城国) 征服とその藩王国 (順城鎮) への再編以降、パードゥランガは阮氏を経由しない貿易を禁じられたのか、日本の『華夷変態』や清朝、チャクリー朝、マレー人諸国の史料には登場しない。一方、広南阮氏は力強く貿易に乗り出していた。西暦1755~1757年頃 (恐らくは英仏間のインド・ブラッシーの戦いの直後 - 乾隆二十二年 = 1757年6月頃)、清朝は、イギリスの商人で外交官でもあった洪任輝 (James Flint, c.1720-c.1770) の寧波入港事件を契機に、清の朝貢国ではない広南阮氏、日本、西洋諸国からの商船の開港場を粵海関 (広州港) の一か所に定めた (広東システムまたは一口通商)。17-18世紀の越南 (大越黎中興朝) では、ふたつの大臣家、北の左輔政鄭氏と南の右輔政阮氏が代々対峙していた。北の鄭氏は東京 (今ハノイ) に都を置く黎朝帝室を擁して清朝に朝貢していた。南の阮氏は広南王と称し、ドンナ

イ (Đông Nai) ~ 広東省間の匪賊 (海賊か) 李文光<sup>(3)</sup> を逮捕送還して (1756)、清朝との関係改善に努めた (『清史稿』巻314「越南伝」)。当時世界最大の市場であった清が一口通商を定め、広州現地において商人同士の通商行動を公認したことは、資本主義の世界化過程の中で阮氏や西洋諸国の対外積極策を後押しした。しかし、資本主義の急激な発展は諸国にひずみももたらした。一口通商開始の14年後、広南阮氏は強引な材木船艘労役の徴発を含む失政により商人と山地民の反乱 - 西山党の乱に直面し (1771)、南の西山阮軍

と北の鄭軍に首都フエを占領され、一旦滅亡した (1777)。王朝再興と南北統一 (1802) を果たした阮朝は、民間貿易を公認して港税を徴収すると共に、国営貿易事業「下洲公務」を継続した。対外積極策は恐ろしい副産物ももたらした。1820年、霍乱 (コレラ) の世界大流行は、阮朝治下のパードゥランガへも波及した。

## 2. 写本①: ポーチュン王のアーリヤー

「ポーチュン王のアーリヤー」(Āriya Pō Ceng) は1974年頃にジェラルド・ムセー神父 (Gérald Moussay) により収集されたチャム写本である。写本番号は無い。本稿では仮にGM1974と呼ぶ。GM1974には筆写者名や摺筆の日付はなく、作成年代は不明であるが、内容と、後出する「ポーポクトゥー王のアーリヤー」との相互補完的な関係から、摺筆の日付 (1839.3.30土曜日) をもつ「ポーポクトゥー王のアーリヤー」とほぼ同時期 (1830~40年代) の作成と考えられる。

「ポーチュン王のアーリヤー」は全136行 (136詩句) からなる。アーリヤー詩体 (āriya <梵: āryā) の名を持つが、梵語のアーリヤー詩体とは韻律が異なる。全約2000語の短編叙事詩である。ポーチュン王 (フルネームはポーチュンチュン王) 退位の2年前である占俗辰年、即ち阮聖祖明命元年 (1820庚辰年) に始まったフエの大南阮朝の新帝 (阮聖祖明命帝, 在位1820-1841)

とドンナイ（チャム写本や『清史稿』のドンナイ/農耐は越南南部，南圻とほぼ同義である）の嘉定城総鎮（左軍黎文悦，在職1812-1832）との対立，先帝の嘉定年間（阮世祖嘉隆帝，在位1802-1820）の末に始まり，明命年間に悪化していく材木船艘労役等のチャム人に対する収奪と，風俗習慣等の同化政策について述べる。

以下に冒頭20行目までと83～90行，120～125行及び末尾4行のローマ字転写と翻訳を記す。

### Āriya Pō Ceng

#### 1～20行（冒頭）

1. 物語ろう，アーリヤーの詩体で，願わくは，ポーデーバター<sup>(4)</sup>よ，聞け，わが書きはじめを。
2. 幼いときから大人になるまで，労役を見てきた，出来事を全て見た，ポーチュン王（主正＝正鎮守である王・阮文振）の治世の労役を。
3. 木を切った，倉庫や城砦をつくるため，米の籠を担ぐの手伝った，新しい倉庫に入れるため。
4. 三人のダラゴツ（市場管理者）がユウン王（先の阮王，阮世祖嘉隆帝）に知らせていくわく，よい木材がある，ムリティット（麻離上道）に。
5. 知らせを聞いて，ユウン王は命じた，チャムの国の人々皆で板を切り出せ(tak papan)と。
6. 手漕ぎ船と帆船(gilai saong ahaok bariyan)を作れ，チャム人は行って板を切り出せ，ムリー村（麻離海汎），ブミー村（扶眉海口），パチャム村（舗占山）<sup>(5)</sup>の者で作れ。
7. また，ラタン（籐）を束ねさせられる，官へ献上しなければならぬ，占俗卯年六月（旧曆嘉隆十八己卯年八月五日以降＝西曆1819年9月23日以降）に，ユウン王の船が受け取りに来ると。
8. 千(rabau, 10<sup>3</sup>), 万(taman, 10<sup>4</sup>), 兆(kot, 10<sup>6</sup>), 億(chai, 10<sup>5</sup>)の現金を作るようにチャムは命じられた，すみやかにその献上を済ま

せろと。

9. あの霍乱(craoh, コレラ)の辰年(1820庚辰年)に，全ての出来事を見た，ポーチュン王の治世の全ての出来事を。
10. 労役で疲れてはいたが，まだ失われていなかった，ポーチュン王は守っていた，わがチャムの風俗習慣を。
11. 占俗午年(1822壬午～1823癸未年)にポーチュン王が逝去すると反乱が起き，ジャ・マンドン<sup>(6)</sup>が戦いを望んだ。
12. そのときポククルン（副鎮，Phó Trần＝阮文永）はフエにいて不在だった，リドンは戦いを望んでパチャム村（市靈堡という駐屯地）に迫った。
13. オンクルン（翁鎮 Ông Trần，藩王国の高官たち）は昼夜を問わず手紙を送りユウン王に伝えた，チャム人が反乱を起こしたと。
14. フエにいたポククルンは不安を口にした，ユウン王（当時は阮聖祖明命帝）は任命した，彼をジャヌン・クラントゥー（占：Janang Klen Thu＝漢越：Chánh Trần Thủ，正鎮守である王）に。
15. そして彼に命じた，やつをとらえよと，やつと戦って打ち負かし，その首をとってこいと。
16. 彼はパンラン（潘郎），クロン（龍郷），パリック（潘里），パジャイ（舗諧）の各道（どう）の人々を震えさせて，共に従軍させた。
17. リドン（＝ジャ・マンドン）の兵士たちは，前に進み，立ち上がって，弓を射たが，ユウン軍（ポークルンが率いる阮王の官軍）に敗れて，戦いをやめ，ちりぢりに逃げ出した。
18. 彼（阮文永）は兵士たちを連れて帰り，国を静めた，彼はユウン王の詔をチャムに伝えた，木を切って板を作れと。
19. 村々の人々が嘆いた，ポークルン王（主鎮＝鎮守である王・阮文永）の治世の労役の，なんと苦しいことかと。
20. 占俗酉年十二月（旧曆明命七年二月，西曆1826丙戌年3月9日以降），また戦いがあり，

千百の人々が高地へ連れて行かれた。

### 83~90行

83. 占俗辰年（明命十三年＝西暦1832壬辰年）に至り、かのオン・カドゥー（嘉定城鎮であった左軍・黎文悦）が亡くなると、あらゆるところにユウン人が送られてきた。
84. ユウン王はポープロン（王と高官たち）を全てとりかえ、罪びとまたは誤った人々をもらえ、縛って棺桶（牢獄）に押し込んだ。
85. （高官たちは）解職を命じられ、打ちつれるとおどされた、それは（ユアン王）の怒りから、あの奇特なカドゥー（が選んだ、ポークルンこと阮文永の次の藩王ポーボクこと阮文承）への。
86. 資産と業務を集計せよと命じられた、全ての兵士、戦象、軍馬が（兵舎から）追い出された。
87. ドンナイを統治する（越人の）ポープロンたちも皆怒っていた、全てが取り換えられると。
88. それからユウン王は占星術師に来るように呼びかけた、歴史書を開いて、国と人を見せるようにと。
89. ユウン王は全てのポープロンたちに呼びかけた、集い話し合っ、チャムに袴（talipha）を履くことを学ばせるようにと。
90. そして禁止した、神事（ngap yang）や祈願（rija）を、チャム人を一つの国に連れていき（ba Cam sa aia）、すべての人々と一緒に（saong drei pa-abih）居させようとした。

### 121~125行

121. これから先の仕事はユウン人のようにせよ、ユウン人は流儀が異なる、見て目でまねよと。
122. 彼ら（ユウン人）は命じた、自分たちに元の帳簿をわたして見せよと、（それを）もっていくと尋ねてくる、昔の（所有者の）祖母・祖父たちについて。

123. 彼ら（ユウン人）は人々に尋ねた、（この箇所が）よくわからないと、（この）字は正しいか、どう読むか、自分たちがわたされた帳簿の中身について。
124. （ユウン人の）地簿の官に（帳簿を）わたすことについて話し合った、帳簿を手に取り、彼らが尋ねてきたときに我々としてどう答えるのが正しいだろうかと。
125. 我々人々は話し合った、山羊と菓子と鶏を供えて、（ユウン人に祖先を話す）許しを乞うた。

### 129~136行（末尾）

129. （ユウン人はチャム人を）連れていき、伝えたとおりに納税させた、（チャム人の）ポーブム（土地管理者）たちは両替商のように（納税額を偽る者から賄賂としての）銭を受け取った。
130. 彼ら（ポーブムたち）は受け取って、それから帳簿どおりにしるしをつけた、（賄賂を受け取ったが報告を偽らなかった？）彼らは報告に行き、申し上げた、正しく帳簿どおりであると。
131. 二人の命令を受けた者が田地を踏査しに来た、彼らは帳簿を作らせて、それが終わると官に納めさせた。
132. 村じゅう、国じゅうのチャムの子らが多く、嘆きの思いを抱いた、なんとこんなことが、よくみる光景になるとは。
133. ユウンがしもべにも、その主人にも命令を出すときがきた、全ての者に、命令を聞かせる。
134. なんと疲れ、力尽きる労役であったことか、全ての出来事を書き出しておこう、わがチャムのはらから（同胞）を締め付けた。
135. （人々は）一緒にユウンの服を着ることを、袴を履くことを望むようになった、手拭いを首元に締めることも、キンマ袋を肩から吊ることもなくなった。
136. それから、該総（集落連合体の首長）の

子どもを全てとらえて、彼らを連れて行かせた、風俗習慣を学び直させるために。

### 3. 写本②：ポーボクトゥー王のアーリヤー

「ポーボクトゥー王のアーリヤー」(Āriya Pō Phaok The) は1974年以前にジェラルド・ムセー神父によって収集されたチャム写本である(写本番号CM29)。写本にはキムアタイ(Kim Athai)によるチャム暦占俗戌年臘月白分十四日(Thun anak nasak asau, bulan mák, harei sa pluh pak bangun)の擱筆がある。占俗歳首は前述のように春分直後の旧暦三月であるから、占俗戌年臘月白分十四日は、旧暦明命二十年(己亥年)二月十四日、③西暦1839年3月28日木曜日となる。故に、「ポーボクトゥー王のアーリヤー」自体は年代記(sakarai)ではなく叙事詩(āriya)の形式ではあるものの、ポーボクトゥー王の法務死(1834-1835頃)の5年後の完成または筆写であり、ほぼ同時代史料といえる。「ポーボクトゥー王のアーリヤー」は全202行(202詩句)からなる。アーリヤー詩体の名を持つが、ほかのアーリヤー作品と同様、その韻律は喃詩(越語詩)の六八体に近い。全約3000語の短編叙事詩である。ポーボクトゥー王の退位年である占俗辰年(1832壬辰年)即ち大南阮聖祖明命十三年の、明命帝による最後のチャム王ポーボクトゥーの強制的な退位と失踪、「材木船艘」の労役等のチャム人に対する収奪と風俗習慣の同化について述べる。

以下に冒頭8行目までと46~59行、80~81、89行及び末尾の21行のローマ字転写と翻訳を記す。

#### Āriya Pō Phaok The

##### 1~8行(冒頭)

- ここに物語ろう、チャナン宮<sup>(7)</sup>においてポーボク(主副、副鎮守である王・阮文承)が国を掌っていた、隊元(該隊の阮文元)の後見を得て。
- 国内で人々は祈った、心を込めて、チャム

の国を掌っていたポーたちのために。

- もし彼(ユウン王=阮王、明命帝)が二人を呼び出し死なせたら、彼は詔をつくり、もってきて国を壊して荒らすだろう。
- 占俗辰年三月(旧暦五月、1832壬辰年5月30日以降)にその詔が送られて来た、彼(ユウン王)がポーボク王と隊元を呼び出す詔が。
- 彼(ユウン王)はポーボク王と隊元とを彼のもとへ連れてこさせ、尋ねた後で連れ去り、二人を隠した。
- その後、彼(ユウン王)は、ユウン人を欽派の官(a-ngan ja Kham、欽を名とする者)に任命して来させ、彼に任命し直させた、(国じゅうの)該総と里長を。
- 彼(欽派の官)が木を切りつけて(造船用防水樹脂や松明に使う)猛火油(truai、ダンマル樹脂)をとるよう命じた、(人々は)ノルマを果たすことができるか不安だった、彼が首を切りつけてくるのが怖かった。
- (ノルマが果たせなければ)ユウン人が首を切ると心配して泣き叫び、天の神ポーリンギツ(Pō Lingik)の名を呼んだ。

##### 46~59行

- 嘉隆の代(だい)は、ちょうどよかった(hu mbih)、バリク、パンラン、クロン、パジャイの各地に、彼(嘉隆帝)は呼びかけ、皆を集め、箕を用いた播種額で納税させ、三銭<sup>(8)</sup>(三百文か)を集金しただけだった。
- ユウン王は命じた、昔のように倉庫を作れと、国じゅうに干し飯(pei)を納付する倉庫を作り、ひとつひとつの倉庫に年貢米をもっていき、満たせよと。
- 明命の王の代、彼(ユウン王=明命帝)は通達(ta mabuk)をつくった、田祖(jā padai)を計って(hakak)納めよと、彼は国じゅうに税を納めるための倉庫をつくった。
- 彼(ユウン王)は伝えさせた、(飯の)椀にも課税せよと、一膳のこらず(sa ka mban)と、彼はチャム人を苦しめた、彼(自

- 身)は食べ残しを散らかしていた(であろうに)。
50. チャムから人頭税を収集した (akaok Cam nyu rik jén), 一人一貫三銭 (一貫三百文か), 一人一貫五銭 (一貫五百文か), 彼 (ユウン王) は持ってくるように命じた, 倉庫の中に納めよと。
51. 決められた額にたりていなければ, さわぎたてて聞かなかった, ユウン人は打ちつけて従わせ, 金策に走れ (nduec duah bi hu) と命じた。
52. チェイ (神) に申し上げよう, 行ってポー (神) にお伝えしよう, ユウンの官はチャムを虐げ, 七つの集落が丸ごと失われてしまったと。
53. ユウン人は打ちのめす, 決められた額を納めない者を, (人々は) ふるさとの村 (klak palei) をすてて逃げた, チュルーやラグライ人の中へ。
54. そして彼ら (ユウン人たちは) 該総たちに (その管内の) チュルーやラグライ人の村に逃げたチャム人を連れてこさせて, 逃げた者たちを彼らに屈服させ税を納めさせた。
55. 該総たちも泣き叫んだ, 逃げた者たちの身の上がわかっていたから, ふるさとから逃げ出したチャム人たちは, 彼ら (ユウン人たちは) はチャム人に借金までさせた (税を納めさせるために)。
56. ユウンの官に屈服して税を納めない者は炎天下の野ざらし (dan di pa-ndiak) にされた, 三日後にときはなたれると, 彼ら (ユウンの官たち) に打ちのめされ, 逃げないように仕向けられた。
57. チェイ (神) に申し上げよう, 行ってポー (神) にお伝えしようではないか, 彼ら (ユウン人たちは) はチャム人を滅ぼそうとしている (ngap di Cam kieng ka brai), 母と子が離れ離れになって迷おうとしている。
58. 明命の王の代 (だい) は, 即位このかた, 彼はくりかえし詔を出して知らせてきた, 木をきり, 板をとれ, 百も, 千もと。
59. 彼 (ユウン王) は, (人々が) 木を切っても, すぐに次の詔を出してくる, 彼は人々をして水牛をそのままにさせ (paok ni mak kabaw di yau), 水田を古いまま耕作放棄させた (luai balau)。
- 80～81行, 89行**
80. 彼 (欽派の官) がユウン王からの詔を送ってきた, 船を造れ (ngap ahaok gilai) という詔を, 彼 (欽派の官) はカロン山<sup>9)</sup>でチャム人に第二帆柱を切らせた。
81. 木を切った後, 欽派の官はそれをチャムの者に川経由で引いてこさせた, 欽派の官はチャムの者をとらえて打った, 早く運びなかったから。
89. ポー (神) に申し上げよう, 行ってアカン (天) にお伝えしようではないか, 彼 (ユウン王) が, チャム人に板どりをさせるのを, 一人七貫二銭を納めさせる (nyu rik ni jon wek sa urang tjuh kuen dua jon) のを止める (blaoh akhan) ようにと。
- 192～202行 (末尾)**
192. チャム人の国は失った, 全ての ガヌウン・アーチャー (回教指導者) を。ユウン人からながしかを盗み取ろう, ポー (神) に供えるためのものを。
193. ユウン人は川を埋め, 塩田をつくって塩を湧き出させた, 彼らはチャム人を袋に閉じ込め, 貧しさに苦しませ, 飢えさせた。
194. チャムの慣習 (Adat Cam) は禁忌が多く (khin bikan lo), 未発展で (mada), その (チャムの慣習という川の流れは) 強くないと (oh truh yawa), ポー (神) はお考えなのか。
195. 昔チャム人にはたくさんの塩田があったが, 彼ら (ユウン人) がチャム人を森に追い払い, 塩田を自分たちのものにした。
196. ポー (神) に申し上げよう, チャム人の国の塩田はユウン人が自分たちのものにし

たと。

197. チャム王の代には、ユウン人に市場をやらせてあげたのに、ユウン人はそのことを恨んでか、チャム人をしもべにしようとしている。
198. もしポー（神）がパリク、パンラン、クロン、パジャイの各地を、チュルー人、ラグライ人を愛でるならば、皆に呼びかけて集めたまえ、慈悲をたまわりたいまえ、ポーよ、チェイよ。
199. ポー（神）よ、国じゅうが年じゅう月じゅう貧しさに苦しんでいる、ノサラワンよ、全てをポー（あなた）に捧よう。
200. 万歳！及時のお方（時宜にかなったお方）ポートゥムデーバターよ、ポー（あなた）のために、老いてなお、しもべであるチャム人の国はお仕えする。
201. 目前には凶事（jhak）ありといえども、将来は王が現れよう、昔からあった（mang di kal）わが祖国（ditbiya）、女子よ、男子よ、汝らに幸せあれ！（auen tbuen）！

#### 4. おわりに

ふたつのチャム写本短編叙事詩は、大南阮朝の対外積極策・造船事業と地域社会の疲弊について、幾つかの手掛かりを与える。第一に、これらのチャム写本の記載事項の多くは、阮朝正史や阮朝の公的性格の高い史書・地誌とクロスチェックし、その事実を確認することができる。そのことは、チャム人側で民族への不当な仕打ちと認識していた材木船艘労役等が、実際にはチャム人・越人双方に適用されていたことを含意する（Trần Văn An, 2013）。「ポーチュン王のアーリヤー」第90行は、神事と祈願の禁止<sup>(a)</sup>が、単一国家での全民族の共生のため<sup>(b)</sup>であったことを明記する（Blaoh pakep ngap yang ngan rija<sup>(a)</sup>, mak Cam blaoh ba, sa aia saong drei pā-abih<sup>(b)</sup>）。また、阮朝に対する蜂起軍（1834-1835南圻逆匪と順省蛮匪）の盟友・黎文傀が恣意的な材木船艘労役徴発を行ったとして『大南正編列傳二

集』黎文傀傳（黎文傀伝）で非難されていることは、チャム王の友人カドゥー（黎文悦）や蜂起軍の盟友・黎文傀もまた、材木船艘労役でチャム人を苦しめた側であることを示唆する。第二に、これらの写本は、パードゥランガ藩王国（順城鎮）の直轄化が1832年に突然なされたのではなく、1819～1835年ごろにかけて、漸進的に進められたことを示す。「ポーチュン王のアーリヤー」第88行「それからユウン王は占星術師に来るようと呼びかけた、歴史書を開いて<sup>(10)</sup>、国と人を見せるようにと」（Blaoh patao ew huer [ <ra-huer > nan merai, peh tapuk sakkarāy, gleng mboh nagar ya urang）や、第124行「（ユウン人の）地簿の官に（帳簿を）わたすことについて話し合った、帳簿を手に取り、彼らが尋ねてきたときに我々としてどう答えるのが正しいだろうか」と（Biai gep luak ka ong juak hamu, apan tho nyu ta-ngi, drei ndom siber thi njep）は、直轄化の最終段階における、フエ阮朝王宮での「王の年代記」の読み上げや、阮朝地簿制作の過程を示す歴史的瞬間であろう。

第三に、暦と宗教に関する示唆を有する。「ポーボクトゥー王のアーリヤー」における摺筆の日付を含め、ふたつの写本が本質的に歴史叙述ではないにも関わらず、その記事の信用性を高めているのは、幾つかの記事に日付（年と月）がある点である。宗教に関して、「無からの創造」以降の世界主宰者デミウルゴス（Dēmiourgos）であるポーデーバター（Pō Débata）がしばしば言及される。また、預言者ポーモハマト（Po Mohamat）のほか、14世紀末～15世紀初めのチャム人に回教をもたらしたとされるポーノサラワン（Po Nosarawan）<sup>(11)</sup>が言及されている。このことから、これらの写本が作成された時点において、チャムの回教信仰は、すでに聖者信仰に近いものになっていたことがわかる。

以上の三点を踏まえ、1819年以降のチャム人地域社会の疲弊について、次のようにまとめることができる。1695年の再独立後のパードゥ

ランガ藩王国（順城鎮）では、阮氏・阮朝がパードゥランガという半砂漠地帯における経済開発の困難さを考慮して、阮氏・阮朝直轄領と比べ、優遇税制を設定していた（嘉隆十三年＝1814年の順城鎮税例：毎播種粟一畝、収税例八升）。課税基準が藩王国時代の毎播（播種定額制）と直轄化以降の毎畝（農地定額制）で異なるので、税制改定による増税額の幅も反収により異なるが、優遇税制の撤廃と、越人並み課税（明命十七年＝1836年の平順省税例：草田毎畝租税粟二十六升、山田二十三升）及び海と森の両方をもつ各地に適用された材木船艘労役の徹底的な徴発が、チャムの人々の家計収支を大幅に悪化させ、脆弱な階層において破産や債務奴隷への転落を引き起こし、1834-35年の回民蜂起の原因になったと考えられる。回民蜂起に関し、198行以下の詩句原文を確認する：

198. *Mayah pō anit Parik Pa-nrang Kraong Pajai, Cru Raglai ew abih taom marai, ni thot [<that> biyak pō su cei,*（下線：皆に呼びかけて集めたまえ、慈悲をたまわりましたまえ）。

199. *Pō nao ra-mbih ra-mbâp di riim thun bulan, sa baoh nagar, Nosarawan, abih lijang alin ka pō,*（下線：ノサラワンよ、全てをあなたに捧げよう）。

200. *Tadhau ayuh, Pō Sūmu Dēbata, pō ni daok tel taha, nagar ni Cam halun ga-mbak,*（下線：万歳！）

201. *Jhak dahlau tel hadei jiéng nuerpa [<norapa>], mang di kal ditbiya, baol nga bhap kumei auen tabuen,*（下線：幸せあれ！）

これらの詩句は、叙事詩の結びとしての神への祈りとも、虐げられた民への蜂起の檄とも読み取れる。以下、第201行の詩句を、ホー・チ・ミン（胡志明）の1968戊申節攻勢（テト攻勢）蜂起の号令と呼ばれる喃詩「祝節詩」（*Thơ chúc tết*）と比較する。この詩は1968年正月の元日の『人民報』（*Báo Nhân Dân*）に掲載され、旧正月前の除夜に、ラジオ放送で読み上げられ

た：

目前には凶事ありといえども、

→*Xuân nay hơn hẳn mấy xuân qua,*

春此欣幸幾春過：此春は幾春来よりよかろう、  
将来は王が現れよう。

→*Thắng trận tin vui khắp nước nhà*

勝陣報吉遍国家：国中に戦勝の吉報が届こう、  
昔からあったわが祖国、

→*Nam Bắc thi đua đánh giặc Mỹ!*

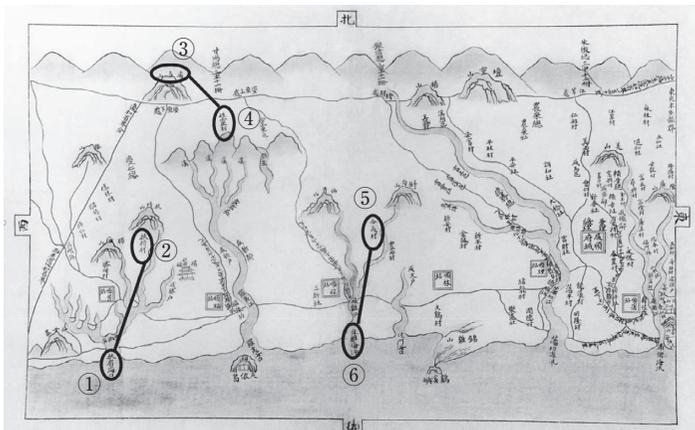
南北試競打賊美：南北競って米賊を打て！

女子よ、男子よ、幸せあれ！

→*Tiến lên! Toàn thắng ắt về ta!*

前上全勝回帰我：進め全勝われらにあれ！

今後の課題は、この時期（1820-30年代）に、直轄化をチャム人や山地民であるチュルー人、ラグライ人地域に広げ、越人並み課税を徹底した理由<sup>(12)</sup>である。対外貿易決済に使用する秤量貨幣用の地銀確保のためとする仮説を立て、検証していきたい。



- ①扶眉海口
- ②扶持村
- ③舖占山
- ④性靈村
- ⑤麻離海汎
- ⑥合義村

図：「同慶御覽輿地誌附図」（1888）咸順府図（A.537/3, f° 57+, 50 x 32 cm）の材木船艘勞役村：扶眉海口の扶持村，舖占山の性靈村，麻離海汎の合義村の，おおよその位置関係

表：「ポーチュン王のアーリヤー」，「ポーボクトゥー王のアーリヤー」が取り扱う年代（1819～1839）のチャム占俗暦（歳首旧曆三月の陰陽曆）と尼俗暦（ジャワ曆≒回曆≒太陰曆）の対照

年号	年の干支	西暦による阮朝協紀曆旧正月	西暦による占俗歳首と旧曆月/回曆月の差 (-)	年の十二地支	チャム語の十二地支 Nasak (Naksatra)	チャム語の八天干 Ikesarak (Ekeivara)	年の八天干	旧曆による名義上のジャワ暦歳首の曜日と日の干支	旧曆による2021年現在尼俗の名義上の歳首/実際の	旧曆による実際のジャワ暦歳首：日曜年水曜日丙辛法 Aboge, 1749～	旧曆ジャワ暦歳首日曜年火曜日乙庚 Asupan, 1867～	西暦ジャワ暦歳首(回曆/シカガ紀元) 1867までAbogeと一致 1867からAsupanと一致
嘉隆18	己卯	1819.01.26	03.26-28三月/六月Jak	卯	Tapay	Alich	日	日曜戊午08.29		水曜辛酉09.02		10.20.1235/1747
明命元	庚辰	1820.02.14	04.13-14三月/七月Rej	辰	Ingarary	Eha'	木	水曜壬子08.29		月曜丙辰09.03		10.09.1236/1748
明命02	辛巳	1821.02.03	04.02-04三月/七月Rej	巳	Ula anaih	Gim nah	火	火曜丁未08.30		金曜庚戌09.03		09.28.1237/1749
明命03	壬午	1822.01.23	04.22-23閏三月/八月Syb	午	Asaih	Zay	土	土曜辛丑07.29		火曜甲子08.03		09.18.1238/1750
明命04	癸未	1823.02.11	04.11-13三月/八月Syb	未	Pabaiy	Dal	水	水曜乙未07.29		日曜己亥08.03		09.07.1239/1751
明命05	甲申	1824.01.31	03.30-04.01三月/八月Syb	申	Kra	Bi'	月	月曜辛卯07.01		木曜癸卯07.03		08.26.1240/1752
明命06	乙酉	1825.02.18	04.18-19三月/九月Ram	酉	Mamuk	Waw	金	金曜甲申06.28		火曜戊子07.03		08.16.1241/1753
明命07	丙戌	1826.02.07	04.07-09三月/九月Ram	戌	Asau	Gim luic	火	火曜庚戌06.28		土曜壬午07.02		08.05.1242/1754
明命08	丁亥	1827.01.27	03.27-29三月/九月Ram	亥	Pabuei	Alich	日	日曜癸酉05.29		水曜丙子06.02		07.25.1243/1755
明命09	戊子	1828.02.15	04.14-16三月/十月Syw	子	Tikuh	Eha'	木	木曜丁卯05.29		月曜辛未06.03		07.14.1244/1756
明命10	己丑	1829.02.04	04.04-06三月/十月Syw	丑	Kabaw	Gim nah	火	火曜壬戌05.29		金曜乙丑06.03		07.03.1245/1757
明命11	庚寅	1830.01.25	03.24-26三月/十月Syw	寅	Rimaong	Zay	土	土曜丙辰04.29		火曜己未05.03		06.22.1246/1758
明命12	辛卯	1831.02.13	04.12-13三月/十一月Zkh	卯	Tapay	Dal	水	水曜庚戌04.28		日曜甲寅05.03		06.12.1247/1759
明命13	壬辰	1832.02.02	04.01-02三月/十一月Zkh	辰	Ingarary	Bi'	月	月曜乙巳04.29		木曜戊申05.02		05.31.1248/1760
明命14	癸巳	1833.02.20	04.20-21三月/十二月Zhj	巳	Ula anaih	Waw	金	金曜己亥03.28		火曜癸卯04.03		05.12.1249/1761
明命15	甲午	1834.02.09	04.09-11三月/十二月Zhj	午	Asaih	Gim luic	火	火曜癸巳03.28		土曜丁酉04.02		05.10.1250/1762
明命16	乙未	1835.01.29	03.29-31三月/十二月Zhj	未	Pabaiy	Alich	日	日曜戊子03.29		水曜辛卯04.02		04.29.1251/1763
明命17	丙申	1836.02.27	04.16-18三月/一月Muh	申	Ingarary	Eha'	木	木曜壬午02.29		月曜丙戌03.03		04.18.1248/1760
明命18	丁酉	1837.02.05	04.05-07三月/一月Muh	酉	Ula anaih	Gim nah	火	火曜丁丑02.29		金曜庚辰03.03		04.07.1249/1761
明命19	戊戌	1838.01.26	03.26-27三月/一月Muh	戌	Asaih	Zay	土	土曜辛未02.29		火曜甲戌03.02		03.27.1250/1762
明命20	己亥	1839.02.14	04.14-16三月/二月Saf	亥	Pabaiy	Dal	水	水曜乙丑01.28		日曜己巳02.03		03.17.1251/1763
☐チャムニ俗とAbogeの曆法は一致												
共和社会主義越南67	辛卯	2011.02.03	04.03-05三月/五月Jaw	辛卯	Tapay	Waw	金	金曜甲申11.01	金曜甲申11.01/火	火曜戊子11.05	日曜丙戌11.03	11.27.1433/1945
共和社会主義越南68	壬辰	2012.01.23	04.23-21四月/六月Jak	壬辰	Ingarary	Gim luic	火	火曜庚戌09.30	火曜戊寅09.30/土	土曜壬午10.05	木曜庚辰10.02	11.15.1434/1946
共和社会主義越南69	癸巳	2013.02.10	04.10-12三月/八月Jak	癸巳	Ula anaih	Alich	日	日曜癸酉10.01	日曜癸酉10.01/水	水曜丙子11.04	日曜乙亥10.03	11.05.1435/1947
共和社会主義越南70	甲午	2014.01.31	04.29-05.01三月/七月Rej	甲午	Asaih	Eha'	木	木曜丁卯09.30	土曜己巳閏09.02/月	月曜辛未閏09.04	土曜己巳閏09.02	10.25.1436/1948
共和社会主義越南71	乙未	2015.02.19	04.18-04.20三月/八月Rej	乙未	Pabaiy	Gim nah	火	火曜壬戌09.01	水曜癸亥09.02/金	金曜乙丑09.04	木曜甲子09.03	10.15.1437/1949
共和社会主義越南72	丙申	2016.02.08	04.06-09三月/七月Rej	丙申	Kra	Zay	土	土曜丙辰09.01	日曜丁巳09.02/火	火曜己未09.04	月曜戊午09.03	10.03.1438/1950
共和社会主義越南73	丁酉	2017.01.28	04.25-28三月/八月Syb	丁酉	Mamuk	Dal	水	水曜庚戌08.01	木曜辛亥08.02/日	日曜甲寅08.05	金曜壬子08.03	09.22.1439/1951
共和社会主義越南74	戊戌	2018.02.16	04.15-17三月/八月Syb	戊戌	Asau	Bi'	月	月曜乙巳08.01	火曜丙午08.02/木	木曜戊申08.04	水曜丁未08.03	09.12.1440/1952
共和社会主義越南75	己亥	2019.02.15	04.04-07三月/八月Syb	己亥	Pabuei	Waw	金	金曜己亥08.01	日曜辛丑08.03/火	火曜癸卯08.05	日曜辛丑08.03	09.01.1441/1952
共和社会主義越南76	庚子	2020.01.25	04.22-24三月/八月Ram	庚子	Tikuh	Gim luic	火	火曜癸巳06.29	木曜乙未07.02/土	土曜丁酉07.04	木曜乙未07.02	08.20.1442/1953
共和社会主義越南77	辛丑	2021.02.12	04.11-13三月/九月Ram	辛丑	Kabaw	Alich	日	日曜戊子07.01	月曜己丑07.02/水	水曜辛卯07.04	火曜庚寅07.03	08.10.1443/1955
共和社会主義越南78	壬寅	2022.02.01	04.01-03三月/九月Ram	壬寅	Rimaong	Eha'	木	木曜壬午06.30	土曜甲申07.02/月	月曜丙戌07.04	土曜甲申07.02	07.30.1444/1956
共和社会主義越南79	癸卯	2023.01.22	04.20-22三月/十月Syw	癸卯	Tapay	Gim nah	火	火曜丁丑06.01	火曜戊寅06.02/金	金曜庚辰06.04	水曜戊寅06.02	07.19.1445/1957

\*太陰年の名義上の歳首が旧曆月末であるのは、回曆において一日の始まりを日没から起算するため。  
 \*ジャワ曆の五曜 (pasaran) と旧曆の日の干支の対応は、legi = 戌 癸, pahin = 甲 己, pon = 乙 庚, wage = 丙 辛, kliwon = 丁 壬となる。  
 \*ジャワ曆は十二地支を使用しない。チャム曆の八天干と十二地支は全く異なる周期で循環するため、その組み合わせは一定せず、干支表を構成しない。

<注>

- (1) 尼俗：パニー（尼俗）集落で使用されるジャワ暦（ジャワ・イスラーム暦）の一種をSakawi Awalといい、アボゲ暦法（Aboge）と同期する。観測暦ではなく計算暦であるため、標準回暦より2～3日、元日が遅くなる年がある。
- (2) 占俗：チャム（占俗）集落で使用されるヒンズー太陰太陽暦をSakawi Ahiérといい、12木星年＝十二地支があり、また正月を春分直後の新月（旧暦三月三日頃）とする点でビルマのThandeikta暦法に似る（Suga Takashi, 2014）。閏月や正月以外は阮朝協紀暦（旧暦）と同期する。
- (3) ドンナイ～広東省間の匪賊・李文光を逮捕送還：『嘉定城通志』 辺和鎮大舖洲の条、『大南寔録前編』 卷10丁卯十年（1747）の条、『清史稿』 卷527越南伝・乾隆十九年（1754）の条を参照。
- (4) ポーデーバター（Débata）：無からの創造後の世界主宰者。チャム人の創世記「*Sakarai Pō Kuk*」にいう：「そのとき母なる真実（al-haqq<sup>(a)</sup>）である極（al-qutb<sup>(b)</sup>）が虚空（al-'adam<sup>(c)</sup>）を開き、天（al-kawn<sup>(d)</sup>）の法則（al-'adat as-sabab<sup>(e)</sup>）を取り出し、Po Débata Po Kuk, 真実、靈魂（ar-ruah<sup>(f)</sup>）Mohammadに敬礼した」（Seng, in a Pō Kuk alua huk<sup>(a)</sup>, paoh nam<sup>(b)</sup> mak adat ca-mbat<sup>(3)</sup> di ala akan<sup>(e)</sup>, kakuh la-ngaok Débata Pō Kuk, alua huk, auluah<sup>(f)</sup>, Mohammad）（原文Sakaya, 2017：82-83, 111-112）。ここに見えるポーデーバターは、プラトン『ティマイオス』（*Timaeus*, 360 BC）のデミウルゴス（Dēmiourgos）やフィールドウスイー『王書』（*Shahnameh*, 1009-1010）のオルマズド（Ormazd）に相当する世界維持職人のようにも見え、その称号にモハマットが付される点でキリスト教のロゴス（Logos）のような神にも見える。創造者ではない者が無からの創造後の世界主宰者を委ねられる例として、チャム彫刻「毛穴に天人をあまた宿す観音像」（河内国家宝蔵、ギメー美術館）の意匠に影響を与えた『大乘莊嚴寶王經』（*Kāraṇḍa-vyūha-sūtra*）における、密教的唯一神＝本初仏たる観音から主宰を委ねられる大自在天シヴァ（Maheśvara）がある：「時観自在菩薩告

- 大自在天子曰（中略）汝於無始已來為大主宰。『王書』にはプラトン（Plato = Aflatun）への言及、アレクサンドロス（Sekandar）没後のホシャル（Hoshyār）によるギリシャ・インド科学のイランへの導入、ヌシンラヴァーン王（Nushinravān）の宰相ボゾルジメール（Bozorjmehr）の學術振興への言及がある（Dick Davis, 2006）。ヤフヤー・ビスル・バトリーク（Yahyā Bin-al Batrīq, 730-815）がアラビア語に訳した*Muhawarat Timawis li Aflatun*もあり、世界維持職人というプラトンが考案した神格はアラブ・イラン回教世界で広く共有されていた（Aileen Das, 2020）。
- (5) ムリー村（Mali, 麻離村）、ブミー村（Bumi, 扶眉村）、パチャム村（Bicam, 舖占村）：ムリー村の漢名は合義村（Thôn Hiệp Nghĩa, Huyện Hàm Thuận Bắc, Tỉnh Bình Thuận）、ブミー村は扶持村（Thôn Phò Tri, Huyện Hàm Tân）、パチャム村は性霊村（Khu Phố Pa Chăm, Thị Trấn Lạc Tánh, Huyện Tánh Linh）、全てパニー（尼俗）集落。
- (6) ジャ・マンドン（Ja Mang Dong）：『大南正編列傳初集』（1889）卷33占城傳（伝）にいう：「明命三年、阮文振卒、以阮文永為鎮守、製順城銅關防給之。四年三月、甘噌蠻匪斜羅文糾蠻眾、燒破柿檣堡。阮文永追捕、蠻匪遠遁」。
- (7) チャナン宮（Bal Canár）：漢名は静美村（Thôn Tĩnh Mỹ, Xã Phan Thanh, Huyện Bắc Bình, Tỉnh Bình Thuận）。チャム（占俗）集落である。
- (8) 箕の播種額で納税させ、三銭を集金した：「平順省志」（1909）は成泰十年（1898）の平順省・寧順道分割後の平順省身税（丁税、人頭税）年額の総額を正納3,474人、税錢4,516貫零と記す。一人平均身税額約0.8貫＝八陌文である。チャム写本は陌文＝一銭と数え、三陌文を三銭と記したか。『大南寔録正編第一紀』（1847）卷23、嘉隆三年（1804）三月の条に「諸營鎮田租減十之四」、「身税錢人減四陌」とあり、嘉隆年間の身税が三～四銭（三～四陌錢）という記述はほぼ正しい。米価は時期毎に異なるが、粳の標準米価は阮朝の1貫錢＝1斛＝1樹＝68 kg＝日本の1/3石（斛）、1俵である（『大南寔録正編第二紀』（1861）

卷37明命七年（1826）の条）。

- (9) カロン山 (cek Kalaong) : 今のカロン・ソンマオ (Kalon Sông Mao) 自然保護区。
- (10) 歴史書を開いて: 阮文超「順城遺事」所収の「阮文承開載世次」はこのとき阮朝王宮で読み上げられた「王の年代記」の漢文抄訳であろう。
- (11) ノサラワン (Nosarawan<Nushinravān) : Pō Siwan, Nursawanとも記されるイラン名をもつ15世紀チャムの回教伝道者 (Aymonier, 1890 : 186)。
- (12) 理由: Ngô Đức Lập (2022) はこの時期の増税や漕運・水軍増強 (Nguyễn Công Việt, 2022 : 69) を不作対応の備蓄及び輸送力強化のためとする。

#### <参考文献>

- \* AYMONIER, Etienne, 1889. Grammaire de la langue Chame, *Excursions et Reconnaissances* 14-31.
- \* AYMONIER, Etienne, 1890. Légendes historiques des Chame, *Excursions et Reconnaissances* 14-32.
- \* Ban Chấp hành Trung ương Đảng Cộng sản Việt Nam, 1968. *Báo Nhân Dân*, số 5013, 01/ 1 /1968.
- \* BRUCKMAYR, Philipp, 2017. Persian Kings, Arab Conquerors and Malay Islam, in *Islamisation*, Edinburgh University Press, pp.472-494.
- \* Cao Tự Thanh, 2018. “Việt Nam Truyện” (越南傳) trong Thanh Sử Cáo, *Tạp chí Nghiên cứu và Phát triển*, số 3 (146), pp.90-127, Huế.
- \* Chen Ching-ho, 1991. Genchō shoki no Kashū kōmu (下洲公務) -ni tsuite, *Sōdai Asia kenkyū: The Journal of the Asia Studies of Sōka University*, pp.63-83. Tōkyō.
- \* Chén Zhì-chāo/陳智超1984「十八世紀占婆王府档案案目錄及說明」『社會科學陣線』一九八四年第二期, 北京: 中國社會科學院。
- \* DAS, Aileen, 2020. *Galen & the Arabic Reception of Plato's Timaeus*, UK : Cambridge University Press.
- \* DAVIS, Dick, 2006. *Shahnameh: the Persian book of kings*, New York : Viking Press.
- \* Đặng Thanh Bình, 2020. Mạn đàm về vấn đề thiếu

nước tại Ninh Thuận và Bình Thuận, *Tin ngành Đài Khí Tượng Thủy Văn khu vực Nam Trung Bộ*, 23/ 3 /2020.

- \* Faiz Farichah, 2021. The Java calendar and its relevance with the Islamic calendar, *Al-Hilal* 2 (2), UIN.
- \* GSO (General Statistical Office of Việt Nam), 2020. *Completed results of the 2019 Việt Nam population and Housing Census*, Hà Nội : Statistical Publishing House.
- \* ISHIZAWA, Yoshiaki, 1980. Les archives Cam rédigées en caractères Chinois (漢籍チャム写本目録) au fonds de la Société Asiatique, *Historical science reports of Kagoshima University* (29), pp.13-40.
- \* Lê Quý Nguu, 2007. *556 năm đối chiếu âm lịch – dương lịch Việt Nam và Trung Quốc* (越南中國陰曆陽曆对照五五六年曆), Huế : Thuận Hóa.
- \* Li Tana, 2004. Ships and Shipbuilding in the Mekong Delta, c.1750-1840, in *Water Frontier: Commerce and Chinese in the Lower Mekong Region, 1750-1880*, Singapore : Roman & Littlefield Publishers.
- \* MOUSSAY, Gérald, 1971. *Dictionnaire Căm-Vietnamien-Français* (占-越-法辭典), Phnang.
- \* NAGAI, Shin/永井晋 2014「世界哲学構築における<イラン>という視座」『東洋大学国際哲学研究』(5), pp. 23-27.
- \* Ngô Đức Lập, 2022. Policy for “Nurturing people’s livelihood and force” by Emperor Minh Mạng, *Vietnam Social Sciences*, 2 (2022), pp.118-128, Hà Nội.
- \* Nguyễn Công Việt, 2022. The bronze bell of Bình Thuận navy, *Hán Nôm Review* 4 (173), pp.65-70.
- \* OKAZAKI, Akira/岡崎彰2014「ベトナムの曆」『曆の大事典』東京: 朝倉書店, pp.271-272.
- \* Po Dharma, 1987. *Le Pāṇḍuraṅga (Campā)*, Paris.
- \* Sakaya, 2016. *Cham calendar*, Hà Nội : Trí thức.
- \* Sakaya, 2018. *The Myths and Legends of the Cham People*, Hà Nội : Trí thức.

- \* SHINE Toshihiko/新江利彦2016「ベトナム大南阮朝の史官による漢籍チャム写本の参照事例」『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, pp.541-545.
- \* SHIMADA Jōhei/嶋田襄平「東洋年代表」『世界史小辞典』東京：山川出版社, pp.78-120.
- \* SUGA Takashi/須賀隆2014「東南アジア大陸部の太陰太陽暦」『暦の大事典』朝倉書店, p.212.
- \* TSUBOI, Yoshiharu/坪井善明1991『近代ヴェトナム政治社会史』東京：東京大学出版会。
- \* Trần Văn An, 2013. Truyền thuyết thầy Thím và sự tiếp nối Chăm-Việt ở nghề đóng ghe bầu xứ Quảng, *Nguồn Sáng Dân Gian*, số 2 (2013), pp.56-58, Hà Nội.
- \* Thành Phần, 2007, *The catalogue of Cham manuscripts in Việt Nam*, Thành Phố Hồ Chí Minh : Trẻ.
- \* Thập Liên Trường, 2006. *Giới thiệu thư tịch cổ Chăm*, Trung tâm Nghiên cứu Văn hóa Chăm.
- \* YOSHIMOTO, Yasuko/吉本康子2019「チャムの古伝承におけるポー・モハマツとポー・アリー」『東洋大学アジア文化研究所研究年報』(54), pp. 131-141.
- \*『大乘莊嚴寶王經』(新脩大正大藏經20-1050)
- \*『皇越一統輿地志』(1806)
- \*『税例』(1814)
- \*『嘉定城通志』(1820)
- \*『阮朝地簿』(1836)
- \*『大南寔録』(正編第一〜二紀, 正編列傳)
- \*『同慶地輿誌』『同慶御覽輿地誌附圖』(1888)
- \*『大越地輿全編』(c.1872) (1900刊)
- \*『大南一統志』(1909)
- \*『清史稿』(1928)

び基盤研究 (B)「東南アジアのイスラーム化前期に関する研究：宗教・王権・宇宙観」(課題番号 21H 00575, 代表者：菅原由美)の成果の一部である。

(客員研究員／在越日本国大使館専門調査員)

※本稿は日本学術振興会の科学研究費補助金：挑戦的研究(萌芽)「ベトナムのチャム回儒とイスラーム儒教融合」(課題番号19K21648, 代表者：新江利彦), 基盤研究 (B)「ボルネオ島カヤン諸族の言語活動にみるインドシナ諸言語文化の影響」(課題番号20H04432, 代表者：奥島美香)及

**Vietnam-Đại Nam Nguyễn Dynasty's commerce promotion  
and shipbuilding policy and its impoverishment of local  
communities which are seen in Cham manuscripts:  
As a prelude to the Cham Muslim Uprising**

SHINE Toshihiko

In this paper, I, the author confirmed some historical discourses based on the two manuscripts "Āriya Pō Ceng" and "Āriya Pō Phaok" considered to have been written in the 1830s, same time of the Chams of the Pandurang's catastrophe caused by the Nguyễn dynasty like: heavy taxes for shipbuilding, the disappearance of villages, the disappearance of land rights, the prohibition of religion, and the assimilation of traditional customs (adat), and reexamined those with comparison of the Nguyễn's historical sources. As a result, some facts have become clear. 1. Many of the policies implemented by the Nguyễn dynasty for the Cham community were general plicity so those were also applied to the Viet (Kinh), the majority. 2. The Southern rebellion's leader Lê Văn Khôi, who was an ally of the Chams in their rebellion against the Nguyễn dynasty, was accused by the Nguyễn dynasty of promoting arbitrary shipbuilding. Their allies were also the was one of those who oppressed Cham by requisitioning him into the shipbuilding. 3, The Ariya Po Phaok says that their Islamic leader was lost (in the line No. 192). However, in the process of suppressing the rebellion, the Nguyễn dynasty, with the help of two Cham royal women, Nai Khan War and Kaok Jip, succeeded in inviting their surrender, and bloodshed was averted. Therefore, this description is incorrect. This may indicate that the first version of this manuscript was written during the rebellion, and at that time the Islamic leaders had disappeared from each villages to join rebellion or so-called Jihād.

Key words: Vietnam, Cham, Globalization of Capitalism, Nguyễn dynasty Shipbuilding policy, Cham Muslim and Montagnards Uprising during 1834-1835